

(女性獣医師支援特別委員会報告書抜粋：全文ポータルサイトに掲載)

## 女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて — 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために —

平成 27 年 5 月

### はじめに

今後の我が国の発展には「女性の活躍」が大きな柱となるという考えをもとに、平成 25 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略」では、女性が輝く日本を構築するための政策が掲げられ、「職場復帰や再就職の支援」、「女性役員や管理職の増加への数値目標」等が示されている。私たち獣医師の各職域においても、女性の活躍促進の必要性はかねてから指摘されてきた。

女性獣医師の割合は近年特に増加している。平成 24 年 12 月末現在の農林水産省の集計によれば、獣医師全体に占める女性の割合は 27%であるが、年代別にみると 20 代では 45%、30 代では 48%と、若い世代では約半数が女性である。全国 16 の獣医学系大学に在籍する獣医学生の約半数が女子学生であることから、近い将来、女性獣医師と男性獣医師の割合は均衡していくものとみられる。

一方、同集計によれば、20 代から 50 代の女性獣医師の約 7%は無職であり、男性獣医師の約 1%との差が際立っている。このことは、女性獣医師が出産、子育て等のために離職し、その後、様々な理由により再就職が進まないことによるものとされている。

このような状況を分析して要因を明らかにし、女性獣医師がより働きやすい環境づくりをめざすことは、すべての獣医師が働きやすい環境づくりにつながり、獣医師全体のワーク・ライフ・バランスの改善に資することから、日本獣医師会では、藏内勇夫会長直轄の特別委員会として、平成 25 年 9 月に女性獣医師支援特別委員会を設置し、平成 27 年 5 月まで議論を重ねてきた。

平成 26 年 1～2 月に農林水産省の補助を受けて「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を実施し、その結果の概要や委員自らの経験等をもとに議論を進め、平成 26 年 10 月に、現状と課題、必要と考えられる対策等について「女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて—獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために— (中間報告)」としてまとめた。

その後も調査結果の詳細な分析等を進め、平成 27 年 2 月には、平成 26 年度獣医学術学会年次大会（岡山）にて、シンポジウム「すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて－女性獣医師の就業現場から－」を開催し、女性獣医師支援特別委員会の活動報告、各職域を代表する委員の現状、課題等についての発表、総合討論を行って、広く意見を聴いた。

本報告書は、シンポジウムの成果も含め、これまでの議論の結果をとりまとめ、今後の対応や具体的な取り組み等について提案するものである。

## おわりに

委員会では当初、「女性獣医師支援は今さら必要か」「古い世代の意見が役に立つのか（もっと若い獣医師の意見を聴くべき）」、との意見が少なくなかった。しかし、アンケート調査の結果が示され、各委員の長年の実体験やそれを支えてきた思い等が紹介され、議論を重ねるうちに、自らが出産や育児をしながら勤務した時代とは違った、職場に女性獣医師が増えてきたこと等による深刻な状況が認識されるようになった。

アンケート調査は、短期間での実施だったにもかかわらず、4,371 名もの獣医師にご協力いただいた。「女性獣医師の就業環境を考えるための参考に、現在の職場の問題点など、ご自由にお書きください」とした問への自由回答が 1,900 件を超えたことから、女性獣医師の就業実態や活躍促進への関心の高さとともに、悩みや困難に直面されている獣医師が多い実態が反映されたものと思われた。4,371 名のうち、50 歳代の男性が 1,023 名と高い割合を占め、その 6 割が公務員であったことから、女性獣医師の割合が高くなっている職場の管理的立場の方々の関心等の高さが伺えた。

お忙しい中、調査にご協力いただいた方々に改めて心から感謝したい。

アンケート調査の自由回答意見の中に、出産、子育て中の女性獣医師への優遇措置に関する意見が多かったことについては既述したが、男性獣医師や出産・育児を経験していない女性獣医師から、女性獣医師が優遇され過ぎている、甘えが助長される、女性間に不公平感が出ている、といった厳しい意見が数多く見られたことについて、ここでも改めて触れておきたい。獣医師全体の理解醸成や支援体制の整備が重要である一方で、女性獣医師一人ひとりが心がけてほしいと考えられることもある。育児等の制約があっても、限られた時間の中で最大限の責任を果たす、配慮してもらおう周囲への感謝の気持ちを持たない、国を挙げた子育て支援対策の充実が待たれるが、急な子ども

もの病気等に備え自分でもバックアップ体制を確保するよう努める、妊娠、出産は個人差が大きく、育児、介護も個々に事情が異なるので、お互いの多様性を尊重する、こと等。そして、自身の配偶者、親、職場の上司や同僚の理解醸成を積極的に行うことも期待したい。

シンポジウムでは、各職域を代表する委員から、女性獣医師の就業の実態がわかりやすく、リアルに報告され、ふだん知ることのできない他の職域の女性獣医師の実情を共有する貴重な機会となった。報告した各委員はそれぞれの職域のロールモデルである。各委員のご厚意により、報告内容が参考資料（62～106頁）として添付されているので、広く紹介され、活用されることを期待している。

シンポジウムの参加者との質疑やパネルディスカッションでは、それぞれの職場での様々な有効な取り組みが紹介されたが、職域ごとの事情の違い、同じ職域でも規模や経営形態による違い等も浮き彫りになった。同時に、働きやすい条件の整備は経営面と相反することが多く、個々の対応には限界があることも指摘され、日本獣医師会の全国的な取り組みや国の施策に期待する声も多かった。特に、獣医師人材バンク、全国的な相談体制、情報プラットフォームの整備、技術研修の開催や資料、手引書の作成等については、早急な取り組みが求められる。また、小動物診療分野等における代替獣医師の情報共有等の協力体制構築に向け、日本獣医師会と地方獣医師会の連携のもと、整備を進めることが望まれる。

農林水産省の女性獣医師等の就業支援策や日本獣医師会が今後強化して進める幅広い取り組みは、若い世代の獣医師や将来獣医師として活躍する獣医学生を含むすべての獣医関係者が知って、これらを最大限に活用して、活躍しやすい環境づくりをめざすことが望まれる。そのためには、獣医師会の組織率を高めることも重要であり、加入率を上げるための新たな工夫が必要なのではないか、との議論も委員会ではなされた。

近い将来、獣医師全体の半数を占めることとなる女性獣医師が、出産、育児等を経験しつつキャリアアップもし、自信と誇りをもって獣医師として活躍を続けることができれば、より良い獣医療の提供につながるほか、獣医師をとりまく環境全体の活性化や獣医師の社会的地位の向上にもつながるのではないかと期待する。

女性獣医師が生き生きと活躍を続けられる職場は、男性獣医師を含むすべての獣医師が活躍しやすい職場である。このことを、あらためて関係者全員が共有し、具体的な取り組みを開始し、広げ、継続していただきたい。

女性獣医師支援特別委員会 委員名簿  
(平成 25 年度～26 年度)

(委員長)

栗本 まさ子 日本乳業技術協会業務執行理事

(副委員長)

稲垣 靖子 神奈川県畜産技術センター企画指導部企画研究課  
(神奈川県湘南家畜保健衛生所前所長)

(委員)

荒井 桂 オホーツク農業共済組合 女満別家畜診療所 診療所長補佐

石田 真知子 千葉県農業共済組合連合会家畜部診療課係長

及川 知子 横浜市栄区役所(福祉保健センター)生活衛生課生活衛生係長

木村 哲子 東京都動物愛護相談センター多摩支所統括課長代理(監視第一係長)

嶋田 直子 ベリイどうぶつ病院院長

西木 千絵 にしき動物病院院長

前田 育子 茨城県畜産センター養豚研究所首席研究員兼飼養技術研究室長

三谷 邦子 老司どうぶつ病院院長